

Society5.0時代に特に求められる教員像について

教育再生実行会議 第十一次提言（抜粋）

社会の変化や技術革新を受け、教師に求められる役割や資質・能力も変化しています。例えば、教師には教え導くだけでなく、一人一人の個別最適化された学びを支援する力が一層強く求められるようになります。これからの教師は、目まぐるしく変化し続ける社会に的確に対応できるよう絶えず学び続け、必要な資質・能力を着実に身に付けていかなければ、子供たちやその保護者、そして社会の信頼を得ることは難しくなるものと考えられます。

（略）

学校教育の質的充実に対する要請が高まる中、教師だけではなく、社会で実践的な活動を行ってきた外部人材等との連携によって、より一層の教育の充実を図ることが可能となります。働き方改革を着実に進めるとともに、「チーム学校」の考え方の下、先端技術を効果的に活用しながら、教師だけでなく様々な人たちが協働し、一人一人の学びを支えることが重要です。

（略）

これからの学びにとって、ICTは「マストアイテム（＝必需のもの）」であり、ICTとともにある環境の中で子供たちを育てていくことが必要です。そのため、教師にはICTを効果的に活用しながらよりよい教育を行っていくことが一層求められることはもとより、学校にとってもICT環境は新たな学びの基盤として不可欠なものです。

（2）教師の在り方や外部人材の活用

- 国は、今後の社会変革に伴う教育革新の大きな流れを見据え、教師のICT活用指導力の向上、アクティブ・ラーニング、個別最適化をはじめとする Society5.0 に対応した、産業界とも連携し教員養成を先導するフラッグシップ大学（例えば教員養成の指定大学制度等）を創設する。フラッグシップ大学は、既存の制度の特例や弾力化も視野に、スタッフやカリキュラムなどの指導体制を検討し、構築する。
- 国は、教員養成を先導するフラッグシップ大学をはじめとした教員養成機関において、AI や IoT などの技術革新に伴って変化するこれからの社会で活躍することのできる人材を育てるために、STEAM 教育や、児童生徒が ICT を道具として活用することを前提とした問題発見・解決的な学習活動等についての高い指導力を有する教員の養成を促進する。

これまでの議論における御意見

- 目の前で起きている問題を認識し、これまでの先行研究に関する見知から、複数の対応策を提示することができるような教員。
- 教科書に書かれているような、すでにある答えを教えるといったものではなく、すでにある課題を探求して、様々な関係者とともに解決することができる教員。またはそういった力を持った子供を育てることができる教員。
- 校内のスタッフや、外部のリソースをうまくコーディネートする力を持った教員。
- 教育者の立場から、地域課題や地域の将来を担うような人材を、地域と一緒に考えていくための人間関係を構築することができる教員。
- 将来に展望を持って語るような教員。
- 高度な情報活用能力を持った教員。
- 様々な取組に対して、その効果を検証し、エビデンスベースで検討することができるような教員。
- 従来の教科指導や生徒指導といった教育分野の専門力に加えて、先端技術の利活用に係る「企画提案力」、データをエビデンスとして教育の内容に反映させていくことができる「収集分析力」、「コミュニケーション構築力」「チャレンジ精神」「主体性」を持った教員。
- 教育界を変えていけるようなフラッグシップ人材。駒として埋もれないようなイノベーター教員。